

迎古夢旅 4575 : **イベリア半島・黄金の海** P114



どんな状況だったが、記憶が、さだかでない。
何も見当たらない、まばゆい黄金の海に、一艘の舟の出現
ただ、推移を見守った。

頬にあたる風が、弱かったのか、それとも、無風だったのか、記憶が曖昧。
画像記録はしたが、記述はない。

ともかく、静かだった記憶がある。
こうした情景に、出会えたことに、感謝したい。
私には、至福の時間。

この広い海を、小さな船で、どこを目指しているのだろう。
船首に見えるのは、人だろうか。
大きなお世話だが、どんな状況なのだろう。

そんな余計なことを考えるうちに、何もない黄金の海だけになった。
イベリア半島のどこだったか、
何でもない、シーンだが、強く記憶に残っている。

